

教育こども委員会行政調査報告

教育こども委員会委員長 さとう まちこ

1. 日程

令和6年8月19日（月）～20日（火）

2. 調査項目

- (1) 加賀市学校教育ビジョン及び教育改革について（加賀市）
- (2) 災害時等におけるこどもの居場所づくり及び二次避難の受入れ体制について（加賀市）
- (3) 児童・生徒の体力向上策について（福井県）
- (4) 京都大学キッズコミュニティ「KuSuKu」について（京都大学）

3. 委員長所見

(1) 加賀市学校教育ビジョン及び教育改革について

加賀市教育委員会は、スローガンとして“Be the Player”を掲げた学校教育ビジョンをもとに「自分で考え 動く 生み出す そして社会を変える」子どもたちの育成に向けて、教育改革を進めている。

全国的に、学びの多様化学校やイエナプラン教育など、モデル校の設置のみで進める自治体が多い中、モデル校を作らず全市一斉に授業改革の取り組みを実施した事は素晴らしい。

新しい取り組みとなるので当然失敗もあるとは思いますが、それもありきで市全体、保護者への理解を深めながら、子どもたちの為に改革を進めて行くという姿勢は大いに見習うべきだと思う。教育改革の理由としては、目まぐるしく変化する未来へも柔軟に対応できるように子どもたちを育てるということ。そのためには自分で学ぶ力を育み、自立した学習者を育てるという事を主眼としているということだった。今までの一斉授業のスタイルでは、授業についていけない子どもは置いていかれるが、学校現場に空間の自由度を許容し、苦しい子に重点的に支援が行き渡る授業スタイルは、今後、益々増加するであろう、学習支援が必要となる子にも救いの手となる。「あの学校だから進んでいる」という事では教育改革は進まないどころか、教育格差の根源ともなってしまう。年々増加傾向にある不登校問題を鑑みても、今こそ、学びのあり方を見直す事が必要であると感じた。神戸市も加賀市に追いつけ追い越せで教育改革を押し進めたい。

（２）災害時等におけるこどもの居場所づくり及び二次避難の受入れ体制について

災害時には行政の力だけでは対応しきれないことの方が多い。平時より民間と上手く連携しておくことが大事だと思った。近隣都市が被災した際の受け皿になることも想定しながら、日頃から民間団体やNPOとの連携を心がけたい。

プログラミング教育についても家庭の経済格差の解消のために、また、教員だけでは行き届かないところに民間を活用し、手を伸ばすという意味では同じことが言える。



（３）児童・生徒の体力向上策について

福井県では昭和38年から独自の体力テストを行っており、分析をすることで体育の授業への目標を持ち、運動することへの意欲付けになっている。

また、各校の実態に合わせた体力づくり推進計画書を作成し、体力の維持向上にあたっており、年度末の報告書も活用しPDCAサイクルをまわしている。休み時間を活用した業間運動も継続して取り組んでおり、福井県の学校文化の一つのこと。令和6年度より楽しみながら運動するきっかけづくりのサイトとして「はぴりゅうスポーツ広場」の運用を開始し、運動が苦手な子も得意な子も楽しみ継続できるよう、また家族とも一緒に楽しく運動ができるようさまざま工夫がされていた。

部活も無くなっていく昨今、小さな頃からの体力作り、運動習慣作りが重要であると言える。運動は苦しいことではなく、楽しく体を動かすことが大切なのは言うまでもない。

「はぴりゅうスポーツ広場」というサイトでは、成果を可視化し上達することに喜びを覚えることができる。ちょっとしたコツを教えて弱点を補いながら上達をしていく事も子どもにとっては楽しく運動を続けよう、さらに上達しようという大きな動機付けになるのではないかと思う。



（４）京都大学キッズコミュニティ「KuSuKu」について

京都大学は、教職員・学生の福利厚生の一環として、学童保育所 京都大学キッズコミュニティ（KuSuKu：クスク）を令和5年12月に開設した。京都大学の教職員や学生の小学生の子どもが、土日祝日・長期休暇に利用できる。

屋内は今までにない新しい発想でデザインされたインクルーシブな環境で、京都大学研究林の間伐材を利用した家具がふんだんに使われている。京都大学の研究者などが講師となる魅力ある教育プログラムを展開しており、私たちが視察した際に実施されていたアカデミックプログラム「南極でキャンプしながら石を調べてわかること」では、多くの子供たちが参加し、リラックスした雰囲気で見入ったり講師に活発に質問したりしていた。

「KuSuKu」は非常に恵まれた環境だと感じたが、学童の頃から教育格差も広がっていくのかとも感じた。神戸市には多くの大学があるので、連携を模索していくべきではないかと思う。「KuSuKu」における取り組みや講義内容については、全国へ共有していただきたい事をお伝えした。



終わりに、神戸市の未来を担う子どもたちのためには、他都市の有効な取り組みについては見習うべきところは見習い、行政と市会が連携しながらお互いに切磋琢磨していきたいと思う。また、今回の視察においては、委員各位による質疑が視察の質を高め、更に充実させる結果となった。ご多用中に対応していただいた視察先の方々並びに教育こども委員会委員の皆様には感謝を申し上げたい。